

国際協力プラザ  
公開セミナー

岐路に立つODA

# 日本のODA、各国の自助努力に貢献

## ～国際社会で「誇り」と「幸せ」をもたらす営みを～

主催:国際協力プラザ事務局 財団法人国際協力推進協会

国際協力を考える公開セミナー「岐路に立つODA」が三月十四日、東京・東銀座の時通通信ホールで開かれた。ODA総合戦略会議議長代理を務める渡辺利夫・拓殖大学学長による「日本のODAをどう考えるか」と題した基調講演、平成十七年度ODA民間モニター三人による報告会があり、人気のテオ・カスツの「モニターと写真展」が彩りを添えた。

※ODA政府開発援助(Official Development Assistance)略

### 日本のODAの理念

日本のODAの憲法といえるODA大綱は一九九二年三月に閣議決定されたODAの最も重要な理念を「自助努力支援」において、平和国家として、世界の平和を維持し、国際社会の繁栄を確保するため、その国力に相応しい役割を果たすこと、重要な使命である。開発途上国の離陸へ向けての自助努力を支援し、広範な人権、国内の諸制度を含む経済社会基盤並びに基礎生活分野の整備を通じて、資源配分の効率と公正や良い統治の確保を図り、健全な経済発展を実現するというのが、ODA大綱の理念である。

### 「自助努力」とは何か

自助努力を最も端的に語るべきこの指標は、高い外資依存コストを払いつつ、国内貯蓄と世界最高の国内貯蓄で世界最高の経済成長率を実現する潜在性。我が国の経

験と知見、国際社会における協働と連携が提

も決して大きいものではな

「自助努力」とは何か

第二次大戦後の日本は

国際援助機関の近年の

自助努力を示すもう一

開発に必要なインフラ

道があるのみ。熟練労働

自助努力支援②一人間の

ODA触媒×

日本は世界第二の経済



拓殖大学学長  
ODA総合戦略会議  
議長代理 渡辺利夫氏  
(わたなべとしお)

### 基調講演

もつ開発効果は、  
量的にも質的に

経済自立への

国際協力プラザ  
公開セミナー  
岐路に立つODA